

なんたん

No. **31**

農業委員会だより

平成 28 年 10 月号



みんなの応援 背中にうけて
バトンをつなげようーいドン!

農業委員会のうごき	2・3
地域農業を支える	4
まちかど通信	5
特集	6・7
なんたんあっちこっち他	8

平成 28 年 9 月 17 日
南丹市立美山小学校となって
初めての運動会

発行 南丹市農業委員会 編集 南丹市農業委員会広報委員会

〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

■電話 0771-68-0067

■E-mail co-nougyo@city.nantan.kyoto.jp

■FAX 0771-63-0654

■URL <http://www.city.nantan.kyoto.jp/www/resource/nougyou.html>

農業委員会のうごき

管内視察研修を実施しました



▲東 智也さん



▲美山町三笠の田を見学し質問する農業委員

8月26日に農業委員会の南丹市管内視察研修を実施しました。地域で農業に従事し、模範となるような営農経営を目指されている人・団体（組合）等を、農業委員が視察し、農地利用の最適化・農業施策の向上について考える機会です。

今回の視察先1つ目は、美山町三笠で農業に転職された新規就農者で、営農経験2年の東智也さんです。水稲や野菜を約7ha作付されています。1年目は、鳥獣被害といもち病で不作でしたが、今年是对策を行い、順調に生育しているというお話をされました。また販売ルートは自力で開拓され、谷水で作ったおいしいお米と野菜を飲食店等に出荷・販売しております。

2つ目は、「仁江がんばる会」です。園部町仁江で女性3名が平成12年に結成され、野菜づくりをされています。ビニールハウス7棟と露地で、トマト・きゅうり・紫ずきん・とうがらし・春菊などを栽培され、農協への出荷や道の駅「京都新光悦村」で販売されています。特に近年、子どもの野菜ぎらいの克服につながるよう、苦みの少ない品種の「こどもピーマン」の収穫に力を入れ、学校給食用に出荷するなど、消費者や子ども達に喜んでもらえる野菜づくりに取り組まれています。今回の視察で、困難に立ち向かいながらもやる気を維持し、努力を続けながら営農に励む方たちの姿に、自身も意欲が高まりました。

（取材：小林義雄 委員）



▲園部町竹井の野菜畑で説明を受ける農業委員



▲「仁江がんばる会」の森田明子さん(左)、小寺つたえさん(中央)、足立映子さん(右)

日吉町の特産品づくりに頑張る殿田小5年生



▲黒大豆を一粒ずつまく子どもたち

6月24日、南丹市立殿田小学校5年生の20名が、食育の一環として、日吉町特産品の黒大豆の種まきをしました。40cm間隔に印をつけたサシを2人1組で持つて、一粒ずつまきました。黒大豆は、6月28日には発芽し始めましたが、一人ひとりまいた深さが違うため、なかなか発芽がそろいませんでした。7月4日に補植用の苗を植えて、きれいにそろえました。土寄せを2回に分けて行うとともに、今年は適度な雨がなかったため、うね間に水を流す作業を5回しました。

9月末には豆のさやもぶら下がり、ふつくらしたさやを手でつみ、5年生は、秋の収穫を楽しみました。

また、9月には、日吉町の特産品の京壬生菜の種まきを行い、収穫までの計画もしています。

収穫の秋は、食べ物のことを学ぶよい時期でもあり、子どもたちにとってまさに「食育の秋」となっています。

(取材：吉田陽子 委員)

農地利用状況調査、農地パトロールを行いました

7月11日～15日、農業委員と事務局職員・農政担当職員が、担当地区を中心に巡回し、農地利用状況調査と農地パトロールを行いました。平成27年度の耕作放棄地や、農地法に基づく許可などを受けた土地の利用状況の確認や優良農地の実態調査、無断転用や遊休荒廃農地の早期発見等、農地をめぐる現状把握を行いました。その後、調査・確認の結果について話し合いました。

また、調査結果により、必要に応じて農地所有者の方へ利用意向調査などの通知を送付しました。

平成29年度から課税が強化されます

農業委員会が毎年行っている農地利用にかかる状況調査で、遊休農地（農地として有効利用されていない）と判定され、「利用意向調査」の対象となった農地は、調査への回答後、6ヶ月たっても改善が見られない場合、農地中間管理機構と協議する旨を所有者等に「勧告」する場合があります。この場合、当該農地の課税が実質強化される場合があります。

※詳しくは、農林水産省の「遊休農地の課税強化」関連ホームページをご覧ください。

農産グループ パール萱野

(南丹市美山町萱野)



▲そばの種まきのため、田をすく作業中



▲熱中症に気を付けて、日陰で水分補給と休憩をしっかり行います。

地域農業を 支える

あの人この団体!

地域農業の発展を目指し、
力強く活動されている団体
や個人の農業者をシリーズ
で紹介します。



▲「萱野のこんにゃく」ぜひご賞味ください。

由良川の源流から大野ダムに向かって走る「美山かやぶき由良里街道」の大野地区の上流に位置する萱野^{かやぶきの}。戸数20戸と地区では比較的小さな地域ですが、その活動は大きく、特に農業振興には大変力を注いでおられます。

美山町の各集落には、農事組合が古くから結成されています。その活動には様々な制約もあることから、もっと自由な発想で誰でも参加・活動できるグループを作ろうと「パール 萱野」が発足しました。代表は農事組合長でもある廣瀬^{ひろせ}大作^{だいさく}さんが務めておられます。

炎天下の8月13日、2 haあまりの棚田をすき込んで、6人でそばの種をまく作業が行われました。9月には、一面にそばの白い花が広がりました。そばの実の収穫後は、「そば打ち祭り」を開催し、地域の方と新そばを楽しめました。

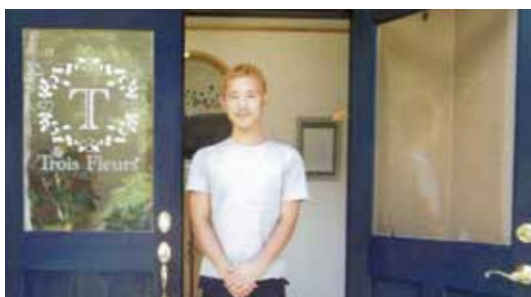
また、この土地の風土がこんにゃく芋の生育に合うことから、休耕田を利用して栽培し、4人の女性グループ（平成元年発足、代表：藤原久子さん）で「萱野のこんにゃく」を作っておられます。約30年たった今では、学校給食でも使われており、道の駅「美山ふれあい広場」や直売所で販売するなど、地域の方たちに食される特産品となっています。新たに後継者ができ、さらに活動を充実させようと販売促進に努めておられます。

(取材：梅津義明 委員)



Trois Fluers トロワフルール

場所：南丹市日吉町保野田大坂11-20
電話：0771-72-1357
定休日：月曜日または不定休(食材調達のため)
開店時間：11:00-13:30(LO)、18:00-20:30(LO)
 *コース料理(2,500円、1,280円)ほか
 地元食材にこだわったフレンチ+食堂です。



▲笑顔で迎える店主の山崎シェフ

JR日吉駅から北西へ約700m、三差路で左にハンドルをきり踏切を渡って1.6km京丹波町に向って走り四方を山に囲まれた閑静な所。青い屋根と白い壁、絵画でよく見るような田舎町のレストランがあります。京都市内で生まれ育った山崎健史・由紀子ご夫婦、3人の子どもたちも自然の環境の中ですくすく育ってほしいと南丹市日吉町へ移り住まれました。京都市内のレストランで5年、京丹波町のレストランに移り5年腕を磨き、10年目を迎えた昨年4月に独立し開店されました。店名は3人のお子さんの名前に「花」を入れたことから、「トローワ フルール」(3輪の花)と命名。

メニューは、お気軽コースなら、

サラダとメイン、ミニデザート。満腹コースはプラス前菜、スープ、デザートセットが付きます。近所の農家から食材を調達しておられ、地元野菜の京壬生菜がおいしいです。店内はカウンターとテーブル席で15席ほど。家族や仲間の食事で楽しめます。貸し切りも可能です。「料理を通して、お客さまといろんな話を楽しんでいきます」と山崎シェフ。ここはおいしい食事と楽しい会話を味わえる場となっています。
 (取材：宇野十三治委員・谷口定己委員)



手づくり工房 FIKA フィーカ

場所：南丹市八木町鳥羽鳥栄本61
電話：0771-20-4173
営業日：月・水・金曜日
開店時間：10:00-15:00
 *織り・柿渋染めのバッグ・洋服など
 *オーダー可。ワークショップ開催。



▲愛用の機織り機
はたお



▲手作り作品が並ぶ店内

元は郵便局の建物ということでお店をするには少し殺風景な感じがしたので、壁には珪藻土を塗り、カウンターにはタイルを貼るなど暑い真夏に汗だくになりながら、3カ月ほどかけて自分たちだけでリノベーションしました。

たとうとしていきます。たくさんのお客さまや仲間を支えられ、徐々にお客さまも増えて、ご注文をいただいたり、ワークショップを楽しんでいただいたりと、感謝をしながら忙しい日々を送っています。作品は織物の鞆が主ですが、柿渋染めの布を使ったり、畳の縁を使ったりなど、それぞれにオンリーワンで心を込めて作っています。

完成したお店の名前「FIKA (フィーカ)」とは、北欧で「大切な人とほっこりお茶をして、楽しい時間を持つ」というような意味で使われている言葉です。ここ「FIKA」が素敵なものや人との出会い、つながりの場となることを願ってオープンしました。手作りが好きだった私は、30年近く務めた職場を辞めて、小物作りから着物のリフォーム、さをり織りなどの豆修行を重ねました。2013年11月にオープンしてから早3年が

そして、動物好きな私は、少しずつ犬や猫たちのための手作り品も並べられたらなあと思っています。オープンには月・水・金の10時から15時という短い時間ではありますが、大歓迎でお待ちしておりますので、お近くへお越しの際はぜひお立ち寄りください。

(岡本敦子さん)



美山町檜原 かしはら

山田文男さん(右)

悦子さん(左)

休耕田を利用して酒米づくり

里の文化と暮らし

特集



山田さん夫婦は、大阪から美山町檜原に15年前に定住され、お食事と一日一組の宿「美山粋仙庵」を開設されました。

当初から休耕田を活用し、地域の農家や週末を利用して京阪神から来られるお客さんたちと美しい自然を守ろうと米作りに挑戦。4年前から約6反の水田で茅葺職人の方と役目を終えた古い茅で有機たい肥を作り、酒米「美山錦」を作付けされています。そして、丹後地方で日本酒の杜氏を務めるイギリス出身の方が酒を仕込み、できあがった純米酒「和く輪く京美山」を、旅館、飲食店等で販売されています。

「田舎暮らしは家族が共通の魅力を感じる事が大切。地域の集会や共同作業にも進んで参加して、地域の一員として信頼されることを心がけています。美しい自然を守るには農業が大切な役目を果たします。後継者不足から壊れることがないように、施策・制度にしっかりと目を向けていきたいです」と笑顔で語っていただきました。

(取材：梅津義明 委員)

貸し借り 安心!

利用権設定

農業経営基盤強化促進法に基づいて
農地貸借の手続きをしましょう。



利用権設定とは

農地を貸したいという農家と農業経営規模の拡大を図りたいという担い手との間で、安心して農地の貸し借りができる事業です。

手続きが簡単で、農地法の許可は不要です。(市街化区域外の農地が対象)

「利用権設定」のメリット

- ・契約期間が終了すれば、離作料を支払うことなく、自動的に地主に農地が返ってくる。
- ・公的機関「農業委員会」が仲介し、安心して農地の貸し借りができる。

全国農業 新聞

を購読しませんか

農業経営と暮らしに役立つ
週刊の農業総合専門紙です。
農業者の視点で、さまざまな情
報をお届けします。

週刊/月4回金曜日発行
月額700円(税込)

南丹市の農作物あるある!

南丹市で作られている農作物に関する情報を紹介します。

「野菜」「果実」「花」など様々な農作物の紹介や、育て方のいろは、それらを使った加工食品や、調理法などを紹介します。



京白丹波

京都府生物資源研究センターで丹波黒大豆のエダメ品種を育成する試験中に、種皮が黄白色の大豆を選抜し、「京白丹波」と命名して平成23年に品種登録された京都府オリジナルの普通大豆です。一般の大豆の1.5倍程度大粒で、コクと甘味は黒大豆の特徴を引き継ぎ、煮豆や豆腐、湯葉に利用されています。



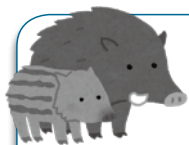
記事・写真提供 京都府南丹農業改良普及センター

胡麻

小さな小さな粒に、深い味わいと豊かな栄養がぎゅぎゅ詰まっている胡麻。脂質・たんぱく質・炭水化物・ビタミン等、私たちの体に必要な栄養を含むバランスのよい食品です。胡麻には「白ごま」「黒ごま」等があり、使い方には違いはなく、好みで選べます。また、食べるだけでなく「ごま」特有の整肌作用が注目され、生胡麻から抽出された「ごまエキス」がたくさん含まれた美容・健康製品が多く誕生しています。



(谷口定己 委員)



特性

本来警戒心が強く、臆病で注意深く、人前には姿を現さない。いったん慣れると大胆不敵になる。「猪突猛進」はパニックになって逆上したときの姿。体毛は太く剛毛。体が電気柵に触れても平気。

(参考資料：農林水産省「改訂版 野生鳥獣被害防止マニュアル」)

繁殖

年1回の繁殖。交尾期は12〜2月頃、出産期は4〜6月頃。満2歳で初産、平均4〜5頭出産と多産、うち約半数が成獣に。野生の寿命はオスが約6歳、メスが約10歳。

鼻は臭いをかぐだけでなく、土を掘る、障害物を動かす時にも使う。50〜60kgの重さを持ち上げ押し動かすことができる。鼻先は敏感で電気刺激には弱い。

行動

昼夜を問わずエサを求めて活動する。行動範囲は周囲2〜3km、時に広がる。成獣は1m以上の跳躍力を持つ。

※イノシシは本来、繊細で用心深い。防護柵などの障害物を跳び越える前に警戒しながら近づき、安全を確認する。そして、助走せずに1mもの柵を跳び越える。上を越えるよりも、下をくぐって通り抜けようとする傾向あり。幼獣は15cm格子を通り抜け、成獣は20cm程度の隙間も潜り抜ける。

食性

雑食性で人間が食べるようなものはすべて食べる。イモやタケノコさらにはイネの穂、昆虫の幼虫など、さらには草や木も食べる。イノシシは、私たちにとってなじみのある動物ですが、意外とその生態は知られていません。習慣や行動に対する誤解から、対策を失敗している例も少なくありません。被害対策の第一歩は、まずイノシシのことを正確に知り、農地周辺の生活痕跡を見逃がさないことが大切です。

野性鳥獣イノシシの生態

なんたん

あっちこっち

とにかく広い南丹市。

南丹市のあちらこちらでは、その地域ならではの面白く、楽しい、また興味深い取り組みがされています。

そんな南丹市の、**あっちこっち**のできごとを紹介します。



子どもたちと楽しむ 田んぼアート

(一社)船井青年会議所(船井JC)が「誰が農業をやっているのかを子どもたちに知ってもらおう」という思いから、田んぼアートを企画されました。中本祐作実行委員長と小西真也副委員長のお二人に話を伺いました。蛸をイメージしたアートで園部JC近くの歩道橋から一望できました。南丹市と京丹波町から小学生を募集したところ25名の参加があり、5月15日に子どもたちだけで田植えをすることで始まりました。理由は「自分たちだけで植えたという自慢をしてみたい」という思いからだそうです。

子どもはどろんこになりながらも、一生懸命植えていたのが印象に残りました。

9月22日には稲刈り体験とわらで遊んでもらう等のイベントが行われました。

子どもたちのはしゃぎ回る姿を見て自分自身の幼少期を思い出しました。

(取材：関隆宏 委員)



▲8月上旬、蒼い稲の蛸



▲秋には、稲穂が実って黄金色に。

委員ぶらり旅

旅人：梅津義明 委員

京都 嵯峨の地

8月の暑い日、JR園部駅から京都行快速電車で約30分。50年ぶりに嵯峨嵐山駅へ降りました。私が18歳から20代半ばまで過ごした、嵯峨の地、嵐山に向かいます。古い住宅街を抜け、天龍寺の山門から中庭を通り、左に折れ、尺八の音がどこからともなく流れる竹林の中を歩きます。今は有名な歌手グループが、当時プロになることを目指してよく演奏していた場所を抜けると、保津川下りの舟着き場に出ます。

川の流れと渡月橋のある風景は、今も心に残る1ページ。川沿いを散歩して、表通りを駅に向かいます。洒落たお店が並んでいて、時の流れを感じる中、よく務めの帰りに立ち寄った定食屋さんが当時のまま頑張っておられました。昔に思いをはせて青春時代の自分と再会する時間を過ごしました。今も嵯峨は古都京都とは違う、もうひとつの京都です。



編集後記

耕作面積の広さを競わせるような見出しの業界紙が多い中、農業の原点は食の安心・安全と地産地消なのでは。夏のリオ・オリンピック、パラリンピックでは、「金」の数より、メダルをとれた力強さと選手や応援する人たちの笑顔に素晴らしさを感じました。(梅津義明 委員)

本紙では、農業委員会の活動だけでなく、地域の食と農業の情報紙として、さまざまな情報を掲載しています。自慢の農作物、地域で取り組まれている積極的な活動、すてきなお店などを「農業委員会だより」で紹介してみませんか。皆さんからの情報提供をお待ちしています。(自薦・他薦は問いません)。広報委員が取材に伺います。

農業委員会事務局 (☎ 0771-68-0067) までご連絡ください。

